



平成29年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成28年11月9日

上場会社名 株式会社カネカ 上場取引所 東・名  
 コード番号 4118 URL http://www.kaneka.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 角倉 護  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 鈴木 啓司 (TEL) 06-6226-5169

四半期報告書提出予定日 平成28年11月11日 配当支払開始予定日 平成28年12月5日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト・機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成29年3月期第2四半期の連結業績(平成28年4月1日～平成28年9月30日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
29年3月期第2四半期	270,182	△3.5	16,460	△14.2	14,044	△11.2	9,143	△7.7
28年3月期第2四半期	279,843	2.4	19,195	102.4	15,808	64.8	9,909	82.2

(注) 包括利益 29年3月期第2四半期 2,366百万円(△70.0%) 28年3月期第2四半期 7,878百万円(△22.2%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
29年3月期第2四半期	27.56	27.53
28年3月期第2四半期	29.66	29.64

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
29年3月期第2四半期	563,007	305,290	51.4
28年3月期	577,251	308,722	50.6

(参考) 自己資本 29年3月期第2四半期 289,324百万円 28年3月期 292,208百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
28年3月期	—	8.00	—	10.00	18.00
29年3月期	—	9.00	—	—	—
29年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成29年3月期の連結業績予想(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	560,000	0.9	38,500	0.7	34,000	2.9	21,000	0.1	63.28

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	29年3月期2Q	350,000,000株	28年3月期	350,000,000株
② 期末自己株式数	29年3月期2Q	18,053,780株	28年3月期	18,356,481株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	29年3月期2Q	331,762,182株	28年3月期2Q	334,083,678株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。
- 当社は、平成28年11月9日に、機関投資家及び証券アナリスト向けの決算説明会を電話にて開催する予定です。

【添付資料】

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	P. 2
(1) 経営成績に関する説明 .....	P. 2
(2) 財政状態に関する説明 .....	P. 3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	P. 4
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	P. 5
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	P. 5
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	P. 5
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	P. 5
3. 四半期連結財務諸表 .....	P. 6
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	P. 6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	P. 8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書 .....	P. 10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	P. 11
(継続企業の前提に関する注記) .....	P. 11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	P. 11
(セグメント情報等) .....	P. 11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成28年4～9月、以下「当第2四半期」)の世界経済は、全体として力強さを欠く展開となりました。米国経済は堅調に推移したものの、政治的動向を含め今後の見通しについては不透明感が高まっています。また、欧州経済は依然回復が鈍く、中国経済も引き続き景気の減速状態が続いています。わが国経済も、住宅投資などで一部回復が見られるものの、個人消費は低迷し、急激な円高の進行が企業業績に影響を与えております。

このような状況のもと、当社グループの当第2四半期の業績については、販売の拡大や事業構造改革に努めましたが、アジア市場が回復せず、円高の影響を受け、売上高は270,182百万円(前年同期比3.5%減)と減収になり、営業利益は16,460百万円(前年同期比14.2%減)と減益となりました。経常利益は14,044百万円(前年同期比11.2%減)、親会社株主に帰属する四半期純利益は9,143百万円(前年同期比7.7%減)となりました。

セグメント別では、売上高は、機能性樹脂事業、食品事業が増収、化成品事業、発泡樹脂製品事業、ライフサイエンス事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業が減収となりました。営業利益は、化成品事業、食品事業が増益、機能性樹脂事業が前年同期並み、発泡樹脂製品事業、ライフサイエンス事業、エレクトロニクス事業、合成繊維、その他事業が減益となりました。

各セグメントの状況は次の通りです。

#### ① 化成品事業

塩化ビニール樹脂は、アジア向け販売数量が増加しました。円高と原料価格下落の影響を受けて、売上高は減少したものの収益は改善しました。塩ビ系特殊樹脂は、塩ビペースト樹脂の販売数量がアジア向けを中心に増加した一方、塩素化塩ビはインド向けの販売が低調に推移しました。か性ソーダは、国内需要が低調に推移する中、コスト低減に努め採算が改善しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は46,056百万円と前年同期と比べ6,511百万円(12.4%減)の減収となりましたが、営業利益は3,148百万円と前年同期と比べ677百万円(27.4%増)の増益となりました。

#### ② 機能性樹脂事業

モディファイヤーは、円高の影響を強く受け売上高は減少したものの、製品差別化力の向上と非塩ビ用途向けなど新用途の拡販が進み、海外市場を中心に販売数量は着実に増加しました。変成シリコーンポリマーは、ユニークな品質特性が広く認知され、建築用途に加え工業用途での他素材からの置き換えが進み、欧州・米国・アジアの各市場において販売数量が増加しました。マレーシアにおけるモディファイヤーの新系列増設工事(2017年3月稼働予定)および変成シリコーンポリマーの生産設備新設工事(2017年7月稼働予定)はいずれも順調に進捗しており、設備稼働後は拡大するアジア市場での需要に確実に応えてまいります。また、前年度第4四半期会計期間よりセメダイン株式会社を連結子会社化し、海外展開を始めとしてシナジーを発揮させる取組みを進めています。

以上の結果、当セグメントの売上高は53,487百万円と前年同期と比べ5,932百万円(12.5%増)の増収となり、営業利益は7,357百万円と前年同期並みとなりました。

#### ③ 発泡樹脂製品事業

発泡スチレン樹脂・成型品は、農水産分野における需要が低調に推移しましたが、押出法発泡ポリスチレンボードは、住宅関連市場の緩やかな回復により販売が堅調に推移し、ビーズ法発泡ポリオレフィンは、自動車分野向けの販売が拡大しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は31,941百万円と前年同期と比べ1,517百万円(4.5%減)の減収となり、営業利益は3,010百万円と前年同期と比べ137百万円(4.4%減)の減益となりました。

④ 食品事業

食品は、国内需要の伸び悩みと低価格志向が継続する中で、消費者のニーズを先取りした新製品の開発・販売に注力し、製品ミックスの高付加価値化を進めています。夏場過ぎの天候不順の影響を受けましたが、サプライチェーン全体の強化・効率化を目指した事業構造改革が進み、収益性が改善しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は72,616百万円と前年同期と比べ1,923百万円(2.7%増)の増収となり、営業利益は1,946百万円と前年同期と比べ1,046百万円(116.2%増)の増益となりました。

⑤ ライフサイエンス事業

医療機器は、血液浄化事業の販売が低調に推移しましたが、インターベンション事業においては他社との共同事業の拡大などにより米国向けの販売数量が増加しました。国内市場では償還価格改定の影響を受けましたが、消化器内治療など新領域への事業拡大にも注力しています。医薬品は、APIやバイオロジクス分野における販売が順調に拡大しました。機能性食品素材は、最大市場である米国を中心に還元型コエンザイムQ10の販売数量が着実に増加し、日本でも機能性表示食品制度のスタートにより当社製品の認知が進み、販売が拡大しました。

以上の結果、当セグメントの売上高は28,453百万円と前年同期と比べ1,614百万円(5.4%減)の減収となり、営業利益は5,669百万円と前年同期と比べ82百万円(1.4%減)の減益となりました。

⑥ エレクトロニクス事業

超耐熱ポリイミドフィルム、超高熱伝導グラファイトシートは、新たな牽引役である高機能品や新製品の販売が拡大しましたが、全般的なスマートフォン市場の立ち上がりの遅れや円高の影響を受けました。太陽電池は、大手ハウスメーカー向けの販売数量が増加するとともに、引き続き事業構造改革が進み採算が改善しました。また、世界最高レベルの変換効率を有するヘテロ接合技術を用いた新製品や高性能品の販売に注力するとともに、ネット・ゼロ・エネルギーハウスの実現に貢献するソリューションの提供に取り組んでおります。

以上の結果、当セグメントの売上高は17,077百万円と前年同期と比べ3,815百万円(18.3%減)の減収となり、979百万円の営業損失となりました。

⑦ 合成繊維、その他事業

合成繊維は、アフリカ市場での頭髮分野向けの販売は引き続き堅調に推移しているものの、アジア市場の回復遅れの影響を受けました。また、高付加価値品の拡販やコストダウンに努めましたが、円高の影響を強く受けました。

以上の結果、当セグメントの売上高は20,549百万円と前年同期と比べ4,056百万円(16.5%減)の減収となり、営業利益は6,552百万円と前年同期と比べ2,156百万円(24.8%減)の減益となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期末の総資産は、現金及び預金や受取手形及び売掛金の減少等により、前期末に比べ14,243百万円減の563,007百万円となりました。負債は、借入金の減少等により10,811百万円減の257,717百万円となりました。また、純資産は、為替換算調整勘定の減少等により3,431百万円減の305,290百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当第2四半期の営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益や減価償却費等により26,223百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出等により20,331百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、借入金の返済による支出や配当金の支払額等により8,748百万円の支出となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期末残高は、39,188百万円となりました。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期の業績は、急速な円高の進行や、エレクトロニクス市場におけるスマートフォン向け需要の低迷などによる影響を強く受けました。引き続き、技術による製品の差別化、コストダウン、事業構造改革の加速により収益の改善に努めてまいります。今後の見通しについては、円高の継続、アジアの景気回復の遅れ、海外の政治情勢の影響など不透明感が強いことから、通期連結業績予想は前回予想を下回る見込みとなりました。

なお、第3四半期以降の為替レート、原燃料価格につきましては、100円/米ドル、110円/ユーロ、国産ナフサ価格34,000円/KLを想定しております。

平成29年3月期通期業績予想数値の修正（平成28年4月1日～平成29年3月31日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり連結当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	600,000	42,000	38,000	23,000	69.35
今回修正予想 (B)	560,000	38,500	34,000	21,000	63.28
増減額 (B - A)	△40,000	△3,500	△4,000	△2,000	
増減率 (%)	△6.7%	△8.3%	△10.5%	△8.7%	
(ご参考) 前期連結実績 (平成28年3月期)	555,227	38,220	33,038	20,985	62.98

※上記の予想は、現時点において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因により予想数値と異なる場合があります。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動  
該当事項はありません。
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用  
該当事項はありません。
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	43,447	39,345
受取手形及び売掛金	121,682	117,474
有価証券	110	110
商品及び製品	51,745	48,661
仕掛品	10,125	10,074
原材料及び貯蔵品	31,828	29,888
その他	15,113	15,792
貸倒引当金	△345	△320
流動資産合計	273,708	261,026
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	69,204	71,097
機械装置及び運搬具(純額)	88,753	91,602
その他(純額)	61,757	55,671
有形固定資産合計	219,715	218,372
無形固定資産		
のれん	4,123	3,533
その他	8,074	7,391
無形固定資産合計	12,197	10,924
投資その他の資産		
投資有価証券	55,602	56,986
その他	16,242	15,913
貸倒引当金	△215	△215
投資その他の資産合計	71,629	72,684
固定資産合計	303,542	301,980
資産合計	577,251	563,007



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成28年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成28年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	64,819	61,735
短期借入金	52,695	48,741
未払法人税等	3,708	3,449
引当金	134	14
その他	42,191	41,559
流動負債合計	163,550	155,500
固定負債		
社債	10,000	10,000
長期借入金	53,773	51,075
引当金	303	317
退職給付に係る負債	36,667	36,616
その他	4,233	4,207
固定負債合計	104,978	102,217
負債合計	268,528	257,717
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	33,046	33,046
資本剰余金	34,936	32,841
利益剰余金	234,377	240,180
自己株式	△15,558	△15,213
株主資本合計	286,801	290,856
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	17,450	18,263
繰延ヘッジ損益	△51	△74
為替換算調整勘定	△1,082	△9,683
退職給付に係る調整累計額	△10,909	△10,036
その他の包括利益累計額合計	5,406	△1,531
新株予約権	228	264
非支配株主持分	16,285	15,702
純資産合計	308,722	305,290
負債純資産合計	577,251	563,007

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
売上高	279,843	270,182
売上原価	200,245	188,899
売上総利益	79,597	81,282
販売費及び一般管理費	60,402	64,822
営業利益	19,195	16,460
営業外収益		
受取配当金	752	1,026
投資有価証券売却益	60	480
持分法による投資利益	167	75
その他	343	458
営業外収益合計	1,324	2,040
営業外費用		
支払利息	596	652
固定資産除却損	1,536	1,108
為替差損	1,493	1,883
その他	1,084	811
営業外費用合計	4,711	4,456
経常利益	15,808	14,044
特別損失		
訴訟関連費用	498	294
特別損失合計	498	294
税金等調整前四半期純利益	15,309	13,749
法人税、住民税及び事業税	3,778	3,882
法人税等調整額	1,329	237
法人税等合計	5,108	4,120
四半期純利益	10,200	9,629
非支配株主に帰属する四半期純利益	291	485
親会社株主に帰属する四半期純利益	9,909	9,143

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
四半期純利益	10,200	9,629
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,446	874
繰延ヘッジ損益	44	△22
為替換算調整勘定	△1,014	△8,985
退職給付に係る調整額	115	872
持分法適用会社に対する持分相当額	△21	△1
その他の包括利益合計	△2,322	△7,262
四半期包括利益	7,878	2,366
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,479	2,205
非支配株主に係る四半期包括利益	399	161

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	15,309	13,749
減価償却費	12,847	13,425
退職給付に係る負債の増減額(△は減少)	311	1,389
退職給付に係る資産の増減額(△は増加)	212	-
貸倒引当金の増減額(△は減少)	43	0
受取利息及び受取配当金	△776	△1,063
支払利息	596	652
持分法による投資損益(△は益)	△167	△75
固定資産処分損益(△は益)	289	317
売上債権の増減額(△は増加)	3,089	2,133
たな卸資産の増減額(△は増加)	△1,515	2,193
仕入債務の増減額(△は減少)	261	△2,037
その他	3,758	△465
小計	34,261	30,219
利息及び配当金の受取額	802	1,065
利息の支払額	△590	△649
法人税等の支払額	△2,846	△4,411
営業活動によるキャッシュ・フロー	31,627	26,223
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△20,378	△19,556
無形固定資産の取得による支出	△1,636	△758
投資有価証券の取得による支出	△46	△36
投資有価証券の売却による収入	320	511
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	-	△102
貸付けによる支出	△1,162	△271
貸付金の回収による収入	531	160
その他	△378	△279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△22,750	△20,331
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△334	△1,943
長期借入れによる収入	10,804	3,120
長期借入金の返済による支出	△7,463	△3,894
リース債務の返済による支出	△56	△81
自己株式の取得による支出	△1,819	△3
自己株式の売却による収入	0	201
非支配株主からの払込みによる収入	-	53
配当金の支払額	△2,680	△3,330
非支配株主への配当金の支払額	△147	△245
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△7	△2,626
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,705	△8,748
現金及び現金同等物に係る換算差額	225	△1,116
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	7,396	△3,973
現金及び現金同等物の期首残高	28,020	43,161
現金及び現金同等物の四半期末残高	35,417	39,188

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

セグメント情報

I 前第2四半期連結累計期間 (自 平成27年4月1日 至 平成27年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	52,568	47,555	33,459	70,693	30,067	20,892	24,606	279,843	—	279,843
セグメント間の 内部売上高又は振替高	479	336	28	3	10	139	646	1,643	△1,643	—
計	53,047	47,892	33,487	70,696	30,078	21,032	25,252	281,487	△1,643	279,843
セグメント利益	2,471	7,359	3,148	900	5,752	572	8,708	28,912	△9,717	19,195

(注) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	28,912
セグメント間取引消去	4
全社費用(注)	△9,742
その他の調整額	19
四半期連結損益計算書の営業利益	19,195

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント								調整額	合計
	化成品	機能性樹脂	発泡樹脂製品	食品	ライフサイエンス	エレクトロニクス	合成繊維、その他	計		
売上高										
外部顧客への売上高	46,056	53,487	31,941	72,616	28,453	17,077	20,549	270,182	—	270,182
セグメント間の 内部売上高又は振替高	502	436	45	3	15	105	764	1,873	△1,873	—
計	46,559	53,924	31,987	72,620	28,469	17,182	21,313	272,055	△1,873	270,182
セグメント利益 又は損失(△)	3,148	7,357	3,010	1,946	5,669	△979	6,552	26,705	△10,245	16,460

(注) セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：百万円)

利益	金額
報告セグメント計	26,705
セグメント間取引消去	△17
全社費用(注)	△10,214
その他の調整額	△12
四半期連結損益計算書の営業利益	16,460

(注) 全社費用は主に特定の報告セグメントに帰属しない基礎的研究開発費であります。